

## 協力隊 トンシン首相を表敬訪問



6月20日、ラオス各地で活動する31名の青年海外協力隊員が横田在ラオス日本大使、武井JICAラオス事務所所長とともにトンシン首相を表敬訪問しました。

ラオスは、1965年、世界で初めて協力隊が派遣された国のひとつです。当初6名から始まったラオスへの協力隊派遣ですが、これまで通算690名を数え、現在は34名が活動中です。分野は保健、農業、コミュニティ開発等多岐にわたり、また活動県もビエンチャン、ルアンパバーン、ウドムサイをはじめ、全国に広がっています。

表敬訪問においてトンシン首相は、年間8千万～1億ドルに上る日本政府による開発援助への謝意を述べました。また、先般の訪日時の天皇陛下謁見の際に、天皇陛下より暖かいお言葉をかけられたこと、そしてその後皇太子殿下が来寮されたことに言及され、友好的日寮関係を重要視する考えを示しました。

加えて協力隊員らを労うとともに、協力隊員によるボランティア活動がラオスの社会経済発展において担う役割の重要性を強調しました。

### 神谷次長着任ご挨拶

米山次長の後任として5月にラオス事務所に着任しました神谷です。過去、中国、インドネシア、フランスに駐在し、今回4回目の駐在としてラオスに赴任でき大変光栄に思っております。

前部署フランス事務所はOECD/DACの議論をフォローしていますが、ここ数年の間にDACでの議論は「援助効果」から「開発効果」にパラダイムシフトしました。JICAも援助の視点だけではなく、幅広く様々なパートナーとの連携の可能性を探り、より開発の視点を意識していく必要があります。ラオスらしい開発とは何かを常に考えながら、業務に取り組んで参りたいと思います。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

2013年5月 ラオス事務所次長 神谷まち子

### 米山次長離任ご挨拶

JICAラオス事務所在任中は、公私にわたり大変お世話になりました。3年3か月間、充実した日々を送ることが出来ましたのも、JICA関係者の皆様とラオスのために心をひとつにして一緒に仕事をすることが出来たことによるものと確信しております。

帰国後暫くはアフリカと中東関連の担当になりますが東京にいても密やかにラオスへの関心は持ち続けていきたいと思っております。またどこかでご縁がある方もいらっしゃるかと存じますが、引き続きよろしくお願いいたします。

2013年5月 人間開発部 米山芳春

## >>>News Update

### トンルン副首相訪日

トンルン副首相兼外務大臣が日本経済新聞社主催第19回国際交流会議「アジアの未来」出席のため、5月22日から24日の日程で日本を訪問しました。会議では、トンルン副首相をはじめとするアジア各国のリーダーが、アジアと世界の新たなパートナーシップに関する講演を行いました。また23日、トンルン副首相は岸田外務大臣と会談を行い、「ナムグム第一発電所拡張計画」、「人材育成奨学計画」及び「タケク上水道拡張計画」にかかわる交換公文署名を行いました。

「ナムグム第一発電所拡張計画」では、ビエンチャン県に位置する当該発電所において40MWの水力発電機1基が増設されます。この協力によって首都圏のピーク電力需要への対応能力を強化することで、同国内の電力供給及び同国の電力輸出入の状況が改善され、同国の経済成長促進や投資促進に寄与することが期待されます。「人材育成奨学計画」は同国の将来を担う若手行政官等を対象に、日本に留学するために必要な学費等を供与するもので、将来各分野で同国が抱える開発課題の解決に貢献するとともに、両国の相互理解、友好関係の構築に寄与する人材の育成を目指します。最後に、「タケク上水道拡張計画」は同国5番目の人口規模を有するタケク郡の都市部において、老朽化している既存浄水場を代替する新規浄水場の建設及び導水施設の整備を行い、乾期の水不足、不安定な給水状況、低い水道普及率等の問題の改善を図るものです。対象地域における給水率の増加が見込まれます。また、より多くの住民に安全な水が届けられることで、住民の公衆衛生環境が改善され、水因性疾患数の減少が期待されます。

これら3プロジェクトの総額は74億3800万円に上ります。さらに副首相は、安倍首相及び麻生副首相兼財務大臣を表敬訪問し、地域的、世界的視点からの日本ラオス両国の財務経済状況に関する意見の交換を行いました。

### ラオス最高人民検察院から表彰状

#### ～法律人材育成強化プロジェクト～

2010年7月から開始された「法律人材育成強化プロジェクト」は、JICA専門家とカウンターパート機関が一緒になって、法律と実務上の問題を研究分析し、その結果をモデル教材としてまとめる活動を進めてきました。また、成果品を活用して、昨年改正された民訴法及び刑訴法の司法関係者への普及もサポートして来ました。

その一環で実施してきた、「刑訴法普及セミナー」は、全国の検察官/検察職員の25%以上が受講し、検察官の能力向上やレベルアップ、具体的な改正法の知識伝達等の大きな成果をもたらしました。

その成果が高く評価され、2013年3月22日、最高人民検察院カムサーン・スウォン長官から、プロジェクトとプロジェクト専門家3名に対して、表彰状が授与されました。



長官から表彰状を受け取る伊藤専門家（左）

#### 広報よりお知らせ

ラオス事務所では現在、英語版ウェブサイトの充実を図っています。最新プレスリリース等、随時更新しておりますのでぜひご覧下さい。

<http://www.jica.go.jp/laos/english/office/index.html>

## ラオス日本センター ビジネスフォーラム

ラオス日本人材開発センターでは7月17日～19日の3日間、農業生産振興、特に農業とビジネスの連携に関するビジネスフォーラムを開催しました。フォーラムでは、東京農業大学門間教授が第一次、二次、三次産業間の連携にかかる日本の経験を80名以上の参加者と共有されました。また、LNCCI会長を初めとするラオス人講師がラオスでの農業振興の現状を発表され、日本の経験を今後のラオスにどう活かすかが議論されました。

最終日にはLAO AGRO ORGANIC & DISTILLERY INC. のラム酒工場を訪問見学し、まさに第一次生産たる農業生産から第二次生産たる加工、そして第三次生産たる販売までの産業間連携の実践の場にて今後のラオス農業のあり方を考えました。



## デング熱流行について

2013年1月～6月30日までのデング熱罹患患者数は16,437名、うち58名が死亡しています。保健省によると2010年の大流行時（23,000名罹患、46名死亡）より感染が拡大しており深刻な状況とのことです。デング熱を媒介するネッタイシマカ（やぶ蚊）の特徴を知り蚊に刺されないよう予防に努めてくださるようお願い致します。

**特徴：**・貯め水（水タンク、花瓶、植木鉢の水受け皿、空き缶、空き瓶、古タイヤ、ココナッツ）を好んで発生源とする。

・気温16℃以上で生息

・メス成虫は、ヒト吸血性が強く、吸血活動は午前中と夕方、1日2回のピークがある。

・生存日数は8～15日間、飛翔距離は30～50m、生涯に移動する家屋はせいぜい2～3軒で、家族全員が掛かってしまうこともある。

**予防：**・防蚊対策（肌の露出を避ける、虫よけスプレーを2時間ごとに使用、蚊取りマットの使用等）

（健康管理員から）

## 米山前次長にLabor Medal

5月24日、計画投資省にて米山元次長へのLabor Medal 授与式が執り行われました。ラオス政府を代表してメダルを授与したソムチット計画投資副大臣は、米山次長任期間の建設プロジェクトから技術協力プロジェクト、さらにはトレーニングプロジェクトにまで渡る幅広い分野でのラオス国家社会経済開発計画の実施に対する貢献を讃えられました。

米山前次長(左)とソムチット副大臣(右)



## ラオス事務所・今後の予定

7月22日（月） 事務所休日

7月22日（月）～8月3日（土）

おきなわ国際協力人材育成事業訪問

8月1日（木）～8月31日（土）

LPPEへのインターン生受入

8月4日（日）～8月14日（水）

教師海外研修訪問

## おことわり

本ニュースレターはJICAラオス関係者を対象としたものであり、JICAラオスの活動内容及びニュースの共有を目的とし、約3ヶ月に1度を目処に発刊していく予定です。ご意見・ご質問は事務所総務・広報班までお願いします。

Taki zawa. Masahi ko@jica.go.jp（滝沢）

Asano. Sumi ko@jica.go.jp（浅野）